日本物语文学作品选读

周萍萍　编

學苑出版社

外交学院本科教材建设项目资助

日本物语文学作品选读

周萍萍 编

阜阳师范学院图书馆
藏书

學苑出版社

图书在版编目（CIP）数据

日本物语文学作品选读 / 周萍萍编. —— 北京 ：学苑出版社，2016.3

ISBN 978—7—5077—4976—2

Ⅰ.①日… Ⅱ.①周… Ⅲ.①日本文学—物语文学—作品集 Ⅳ.①I313.11

中国版本图书馆 CIP 数据核字（2016）第 049918 号

出 版 人：孟 白
责任编辑：潘占伟
出版发行：学苑出版社
社　　址：北京市丰台区南方庄 2 号院 1 号楼
邮政编码：100079
网　　址：www.book001.com
电子信箱：xueyuanpress@163.com
销售电话：010—67601101（销售部）、67603091（总编室）
经　　销：新华书店
印 刷 厂：北京信彩瑞禾印刷厂
开本尺寸：710×1000　1/16
印　　张：12
字　　数：210 千字
版　　次：2016 年 3 月第 1 版
印　　次：2016 年 3 月第 1 次印刷
定　　价：38.00 元

目　录

一、竹取物語 …… (1)
1. かぐや姫のおいたち …… (2)
2. かぐや姫の昇天 …… (5)

二、伊勢物語 …… (11)
1. 初冠 …… (12)
2. 芥川 …… (14)
3. 筒井筒 …… (16)

三、大和物語 …… (19)
1. 山の井の水 …… (20)
2. 姥捨山 …… (22)

四、平中物語 …… (25)
1. 恋の禍 …… (26)
2. 歌合戦 …… (30)

五、源氏物語 …… (35)
1. 桐壺 …… (36)
2. 須磨 …… (40)

六、栄花物語 …… (45)
1. 月の宴 …… (46)
2. さまざまの喜び …… (51)

七、平家物語 …… (55)
1. 祇園精舎 …… (56)
2. 忠度の最期 …… (58)

八、宇治拾遺物語 …… (61)
1. 児のかいもちするに空寝したる事 …… (62)
2. 田舎児桜散みて泣事 …… (64)
3. 猟師仏を射事 …… (66)

九、雨月物語 …… (69)
1. 白峯 …… (70)
2. 夢応の鯉 …… (73)
3. 貧富論 …… (76)

十、春雨物語 …… (79)
1. 血かたびら …… (80)
2. 捨石丸 …… (84)

十一、今昔物語集 …… (87)
1. 清水に参れる女の子、前の谷に落ち入りて死なざりし語 …… (88)
2. 池尾禅珍内供鼻語 …… (90)

十二、宇津保物語 …… (95)
春日詣 …… (96)

十三、落窪物語 …… (113)
姫君の名と知る …… (114)

十四、堤中納言物語 …… (123)
花桜折る中将 …… (124)

十五、西山物語 …… (129)
こがねの巻 …… (130)

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

十六、浜松中納言物語 …… (137)
唐の都に到着 …… (138)

十七、狭衣物語 …… (143)
狭衣と源氏の宮 …… (144)

十八、とりかへばや物語 …… (151)
人知らぬ物思い …… (152)

十九、住吉物語 …… (155)
中納言の姫君 …… (156)

二十、松浦宮物語 …… (159)
遣唐副使の任命 …… (160)

二十一、保元物語 …… (167)
後白河院御即位の事 …… (168)

二十二、平治物語 …… (171)
信頼信西不快の事 …… (172)

二十三、曽我物語 …… (175)
桓武平氏の系譜とその滅亡 …… (176)

参考書目 …… (179)

编 后 记 …… (181)

たけとりものがたり

一、竹取物語

物語。作者不明。原形の成立は、十世紀の初めごろであろう。『源氏物語』に「物語のいでき始めの祖」と言われている。竹の中から見出されたかぐや姫が、五人の貴公子の求婚を退け、また、天子のお召しにも応じないで月世界に帰るという筋。文章は素朴、簡潔である。

1. かぐや姫のおいたち

【原文】

いまはむかし①、竹取の翁(おきな)といふ者ありけり②。野山にまじりて③竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきの造(みやつこ)④となむいひける。その竹の中に、もと光る竹なむ一筋(ひとすぢ)ありける。怪しがりて寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸⑤ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり⑥。

翁いふやう、「我朝ごと夕ごとに見る竹の中におはするにて知りぬ。子⑦となりたまふべき人なめり⑧。」とて、手に打ち入れて家へ持ちて来ぬ。妻(め)の女(おうな)⑨に預けて養はす。うつくしきこと限りなし。いと幼ければ籠(こ)に入れて養ふ。

竹取の翁、竹を取るに⑩、この子を見つけてのちに竹取るに、節(ふし)を隔ててよ⑪ごとに黄金(こがね)ある竹を見つくること重なりぬ。かくて翁やうやう豊かになりゆく。

このちご、養ふほどに、すくすくと大きになりまさる。三月(みつき)⑫ばかりになる

---

①いまはむかし　很久以前的事情。
②ありけり　过去时，与很久以前相对应。
③野山にまじりて　进入深山老林。
④さぬきの造　老翁的名字，可译成“赞岐造麻吕”。
⑤三寸　这里的“三”是有寓意的。
⑥うつくしうてゐたり　可爱的。
⑦子　我的孩子。
⑧人なめり　表推量，意为我认为是这样的人。
⑨妻の女　同位语，指老翁的老伴。
⑩竹を取るに　这里重复出现，是日本古代物语文体的一种表现形式。
⑪よ　竹节之间的空隙。
⑫三月　三个月的时间，这里的“三”与前面的“三寸”相呼应。

ほどに、よきほどなる人①になりぬれば、髪上げ②などとかくして③、髪上げさせ、裳着す④。帳⑤の⑥内よりもいださず、いつき養ふ⑦。

このちごのかたち、けうらなる⑧こと世になく、屋の内は、暗き所なく光り満ちたり⑨。翁、ここちあしく、苦しき時も、この子を見れば、苦しきこともやみぬ、腹立たしきことも慰みけり。

翁、竹を取ること久しくなりぬ。勢ひ猛の者⑩になりにけり。この子いと大きになりぬれば、名を三室戸斎部の秋田⑪を呼びてつけさす。秋田、なよ竹の⑫かぐや姫とつけつ。このほど三日うちあげ遊ぶ⑬。よろづの遊びをぞしける。男はうけきらはず⑭招び集へて、いとかしこく⑮遊ぶ。

【参考译文】

辉夜姬的出生

从前，有个老翁经常到山中伐竹，然后将竹子制成各种物品。老翁名叫赞岐造麻吕。有一天，他照常去伐竹，却看见一根竹竿发出亮光，感到十分奇怪，便走近一看，原来是这根竹子的竹筒中有光线射出。老翁向竹筒中探头，发现里面居然有一个约三寸长的可爱小人。于是老翁说："你住在我天天看到的竹子里，我当然知道你哦。住在竹子里面虽然不无聊，但是你会被做成竹笼，所以你应该就是我的孩子。"因为太小，老翁只好把她捧在手里带回家，并交给家中

---

①よきほどなる人　长大成人。
②髪上げ　女童束发，是女孩的一种成人仪式。
③とかくして　为成年仪式做好准备。
④裳着す　女童着正装，也是女孩的一种成人仪式。
⑤帳　帘帐。设置于贵族女子的闺房外。
⑥内より　从里面。
⑦いつき養ふ　精心养育。
⑧けうらなる　清秀美丽。
⑨光り満ちたり　耀眼夺目，形容人的美貌。
⑩いきほひ猛の者　有钱人，富翁。
⑪三室戸斎部の秋田　三室户是地名，斋部是姓氏，秋田是人名。
⑫なよ竹の　像新鲜的嫩竹。
⑬うちあげ遊ぶ　大办酒宴、歌舞升平。
⑭うけきらはず　接受，不排斥。
⑮かしこく　盛大的。

的老婆婆抚养。孩子长得无比可爱，但由于身体过于细小，只好把她养在篮子里。

自从得到这个孩子之后，每次只要老翁看了孩子一眼然后伐竹，都会在竹节空心处发现许多黄金。于是，他的生活渐渐富裕起来了。

那个孩子在老两口的精心抚养下一天天长大，大约三十个月就长成一个大姑娘了。于是，他们给她梳起发髻，穿上裙子，像富家小姐一样养育，不让她出门。小姑娘的容貌愈发美丽，光艳四射，使得整个屋子十分亮堂，没有一处黑暗。有时老翁心情不好，只要看见这个孩子顿时苦闷烟消云散，心平气和了。

此后，老翁不断从竹子里获得黄金，很快便成为富翁了。眼看孩子渐渐长大了，老翁前往三室户请一个名叫斋部秋田的人给小姑娘起名字。秋田给她取名为“嫩竹的辉夜姬”。为了庆祝取了名字，老翁连续三日，请人载歌载舞，大办筵席，宴请乡邻的男女老少，气势宏大。

2. かぐや姫の昇天

【原文】

かかるほどに、宵うち過ぎて、子の時①ばかりに、家のあたり昼の明さにも過ぎて光りわたり、望月(もちづき)②の明さを十合(とを)はせたるばかりにて、ある人の毛の穴さへ見ゆるほどなり。大空より、人、雲に乗りており来て、土より五尺③ばかり上がりたるほどに、立ち連ねたり。これを見て、内外(うちと)なる人の心ども、物④に襲はるるやうにて、あひ戦はむ心もなかりけり。からうじて思ひ起こして、弓矢を取り立てむとすれども、手に力もなくなりて、萎えかかりたり⑤、中に、心さかしき者、念じて射むとすれども、ほかざまへ行きければ、荒れも戦はで⑥、ここちただ痴れに痴れて、まもり合へり⑦。

立てる人どもは、装束のきよらなること、物にも似ず。飛ぶ車⑧一つ具したり。羅蓋(らがい)さしたり。その中に、王とおぼしき人、家に、「造まろ、まうで来(こ)⑨。」と言ふに、猛く思ひつる造まろも、物に酔(ゑ)ひたるここちしてうつぶしに伏せり。いはく、「なんぢ、幼き人⑩、いささかなる功徳(くどく)を翁つくりけるによりて、なんぢが助けにとて、片時のほど⑪とて下ししを、そこら⑫の年ごろ、そこらの黄金賜ひて、身を変へたるがごと⑬なりにたり。かぐや姫は、罪をつくりた

---

①子の時　深夜。
②望月　十五的月亮。
③五尺　约 150 厘米。
④物　怪物。
⑤萎えかかりたり　力气全无。
⑥荒れも戦はで　毫无悬念的抵抗。
⑦まもり合へり　互相盯着看。
⑧飛ぶ車　中国神话中能够在空中飞行的车。
⑨まうで来　请快出来，带有命令的语气。
⑩幼き人　指代老翁，意为愚蠢之人。
⑪片時のほど　瞬间。
⑫そこら　很多的。
⑬身を変へたるがごと　成为另一个人。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

まへりければ①、かく賤しきおのれがもとに、しばしおはしつるなり。罪の限り果てぬれば、かく迎ふるを、翁は泣き嘆く、あたはぬ②ことなり。はやいだしたてまつれ。」と言ふ。翁答へて申す、「かぐや姫を養ひたてまつること、二十余年③になりぬ。『かた時』④とのたまふにあやしくなり侍りぬ。また、異所に、かぐや姫と申す人ぞおはすらむ。」と言ふ。「ここにおはするかぐや姫は、重き病をしたまへば、えいでおはしますまじ⑤。」と申せば、その返り事はなくて、屋の上に飛ぶ車を寄せて、「いざ、かぐや姫。きたなき所に、いかでか久しくおはせむ。」と言ふ。立て籠めたるところの戸、すなはち⑥、ただあきにあきぬ。格子どもも、人はなくしてあきぬ。媼いだきてゐたるかぐや姫、外にいでぬ。えとどむまじければ、たださし仰ぎて泣きをり。たけとり、心惑ひて泣き伏せる所に寄りて、かぐや姫言ふ、「ここにも⑦、心にもあらで⑧かくまかるに、昇らむをだに見送りたまへ。」と言へども、「何しに⑨、悲しきに、見送りたてまつらむ。われをいかにせよとて捨ててはは昇りたまふぞ。具していでおはせね⑩。」と泣きて伏せれば、御心惑ひぬ⑪。「文を書き置きてまからむ。恋しからむをりをり、取りいでて見たまへ。」とて、うち泣きて書く言葉は、

「この国に生まれぬるとならば、嘆かせたてまつらぬほどまではべらん。過ぎ別れぬること⑫、かへすがへす本意なく⑬こそおぼえはべれ。脱ぎ置く衣を形見と見たまへ。月のいでたらむ夜は、見おこせたまへ⑭。見捨てたて

---

①罪をつくりたまへりければ　这里指为了消除罪孽，下落凡间。
②あたはぬ　即使想挽留也留不住。
③二十余年 这里指辉夜姬待在凡间的年数，意为她已经是一位凡人了。
④かた時　天上和人间计算时间的不一致。这里指用来反驳天人的话。
⑤えいでおはしますまじ　表推量，意为不可能吧。
⑥すなはち　马上，立即。
⑦ここにも　这里表示自称。
⑧心にもあらで　非我本意。
⑨何しに　不知为什么。
⑩いでおはせね　请出来。
⑪心惑ひぬ　心乱如麻，这里指代辉夜姬的心理活动。
⑫過ぎ別れぬること　指停留期限已过，要分别了。
⑬本意なく　遗憾。
⑭見おこせ給へ　请看月光。

まつりてまかる、空よりも、落ちぬべき心地する①。」と書き置く。

天人の中に、持たせたる箱あり。天(あま)の羽衣②入れり。また、あるは、不死の薬③入れり。一人の天人言ふ、「壺(つぼ)なる御薬奉れ④。きたなき所⑤の物きこしめしたれば、御ここちあしからむものぞ。」とて、持て寄りたれば、わづかなめたまひて、少し、形見とて、脱ぎ置く衣に包まむとすれば、ある天人包ませず。御衣(みぞ)を取りいでて着せむとす。その時に、かぐや姫、「しばし待て。」といふ。「衣着せつる人は、心異になるなりといふ。もの一言(ひとこと)言ひ置くべきことありけり。」といひて、文書く。天人、「おそし」と心もとながりたまふ。かぐや姫、「物知らぬことなのたまひそ⑥。」とて、いみじく静かに、朝廷⑦に御文奉りたまふ。あわてぬさまなり。

「かくあまたの人を賜ひて、とどめさせたまへど⑧、許さぬ迎へまうで来て⑨、取りゐてまかりぬれば、口惜しく悲しきこと。宮仕へ仕うまつらず⑩なりぬるも、かくわづらはしき⑪身にてはべれば、心得ずおぼしめされつらめども。心強く承らずなりにしこと、なめげなる⑫者におぼしめしとどめられぬるなむ、心にとどまりはべりぬる。」

とて、

今はとて天の羽衣着るをりぞ君をあはれ⑬と思ひいでけるとて、壺の薬添へて、頭中将(とうのちゅうじゃう)⑭呼び寄せて奉らす。中将に天人とりて伝ふ。中将とりつれば、ふと⑮天の羽衣うち着せたてまつりつれば、翁を、いとほし、くかなし⑯

---

①心地する　感觉。
②天の羽衣　天人(仙人)的衣裳。
③不死の薬　长生不老药。
④壺なる御薬奉れ　请将壶中的药给辉夜姬喝下。
⑤きたなき所　不干净的地方,这里指凡间。
⑥なのたまひそ　表"禁止……"。
⑦朝廷　这里指代天皇。
⑧とどめさせたまへど　请制止我,这里使用了尊敬的表达方式。
⑨許さぬ迎へまうで来て　不许再停留了,所以来迎接。
⑩宮仕へ仕うまつらず　不能在旁边侍候。
⑪かくわづはしき　运气不佳。
⑫なめげなる　无礼。
⑬あはれ　想念,怀念。
⑭頭中将　官职名。
⑮ふと　突然。
⑯かなし　可怜的样子。

とおぼしつることもうせぬ。この衣着つる[1]人は、物思ひなくなりにければ、車に乗りて百人ばかり天人具して昇りぬ。

【参考译文】

辉夜姬升天

就这样，过了初更，到了夜半子时，竹取翁家的周围发出了比白昼还亮的光亮。这光亮相当于满月之光的十倍亮，甚至可以看清人们的毛孔。这时，有人从高空中乘云而下，并排站在地面上方五尺高的地方。看到了这光景，竹取翁家屋里屋外的人，都像是被魔鬼惊到了一样，全无战斗的勇气了。有几个人好不容易决定拿起弓箭来发射，但感觉手臂无力，身体发麻，要倚靠着东西才行。其中有几个特别强硬的人，提起精神把箭射出去，然而箭却偏离了方向。因此，大家停止交战，神情恍惚地盯着这些来自天上的人。

这时候，人们发现这些站在地面上方五尺高的云彩上的天人，衣着华丽，无与伦比。然后又出现了一辆飞车。这车子能够在空中飞行，车顶上铺着轻罗织就的华盖。车里有位大将模样的人，朝着竹取翁家喊道："造麻吕，出来！"以前一向被认为勇猛的造麻吕现在好像喝醉了酒一样，俯首叩拜。大将模样的天人对竹取翁说道："你好愚蠢啊！因为略施善行，我想帮你，就暂时叫辉夜姬下界到你家。长时间以来，你获得了许多金子，变成了和你出身完全不同的有钱人。辉夜姬在天界犯了罪，才暂时来到你这卑贱之所。现在她的罪已经消除，我来迎接她回去，你不要为此哭泣叹息。快把辉夜姬交出来！"老翁答道："我已经为您抚养辉夜姬有二十多年了，而您说是暂时叫她下界，所以我怀疑，大概您所说的辉夜姬在其他的地方吧。"接着他又说："我这里的辉夜姬，因为身患重病，不能出门。"天人没有回答他，让他的飞车掠过老翁家的屋顶，叫道："辉夜姬啊，你为什么要一直待在这污秽的地方！"藏有辉夜姬的屋子的门窗，立即全部敞开。被老婆婆紧紧抱着的辉夜姬，就像怎么拉都拉不住似的，走向屋外。老婆婆仰天哭泣。

老翁心绪纷乱，伏地号啕。辉夜姬走到老翁身旁，对他说："我这一去，并非本意。至少现在，请您目送我回天界吧。"

老翁跪地痛哭说道："我这样悲恸，怎么还能欢送你？你叫我怎么办，你要就这么把我抛下自己回天界吗？请你带上我同去。"辉夜姬听后也心绪纷乱，对老翁说："让我写一封信吧。每当想念我的时候，就拿出这封信看看。"说罢，便

---

①この衣着つる人　穿羽衣的天人，这里指代辉夜姬。

一面啜泣，一面写道："我如果生长在这国土之中，我一定一直侍奉双亲直到终老。这次别离，真的完全不是我的本意。我把脱下来的衣服留在这里，作为我的纪念物，无论何时都请你们多看看。有月光的晚上，请你们看看有我居住的月亮。不管怎么说我，我现在舍弃了父母回天界，心里特别难受，心就像摔落在地一样。"

有一个天人拿了箱子，箱子里装着天人的羽衣，另外一只箱子里装着不死的灵药。这位天人说："辉夜姬，请你吃掉这壶中的药，因为你吃了许多凡间的秽物，心情定然不快。"便把药送给辉夜姬。辉夜姬略吃了一点，把一些药塞进她作为纪念物脱下来的衣服中，但那天人不让她把药装进去，取出羽衣让她穿上。

辉夜姬说道："请稍等一会！"又说："穿上了这件天人的羽衣，心情就会和常人完全不同了。请一定让我再说几句话。"说罢便拿起笔来写信。天人说道："已经太迟了！"辉夜姬答道："不懂你就不要乱讲！"说罢便从容不迫、毫不慌张地写信给皇帝。

信上写道："承蒙皇帝派了许多人来挽留我，但天界迎我返回无法避免，他们是一定要带我回去的，我也觉得遗憾而悲恸。以前我不答应入宫侍奉皇帝，就因为我这与常人不同的麻烦的天人的身份啊。我坚决不从您的命令，无理拒绝您，最后留给自己的都是不舍啊。"

末了附诗曰："羽衣着得升天去，回忆君王事可哀。"

她在信里放入了壶中的不死灵药，叫钦差中将献给皇帝。天人从辉夜姬手中将信交给中将。中将取出壶，而这时天人已经让辉夜姬穿上了羽衣。辉夜姬不再想起离别老翁的悲哀之事，真的离开了。因为穿了天人的羽衣的人可以忘记一切忧虑。就这样，辉夜姬坐上飞车，在约一百个天人的牵引下，飞向月亮去了。

二、伊勢物語（いせものがたり）

歌物語。作者不明。在原業平（ありわらのなりひら）の伝記的歌集を主な素材として、最初成立したと推定される。現在のものは、天暦（てんりゃく）（十世紀中ごろ）以後の成立である。大体百二十段余りから成り、業平の歌を中心に、愛情深い真実な人間の姿が描かれている。『源氏物語』をはじめとして後世の文学に大きな影響を与え、また、和歌的叙情から物語的叙情への展開過程を反映している点でも、文学史上、注目される。